

荒波で問われるのは、コーチへの信頼。

変化と不安を越え、真の繋がりを築くための航海図



なぜ、新しい取り組みで 「船から落ちる人」が出るのか？

組織やチームが進化しようとする時、必ず以下の【変化の3要素】が波を起こし、私たちに自然な「不安」をもたらします。



1. 慣れたやり方が
変わる



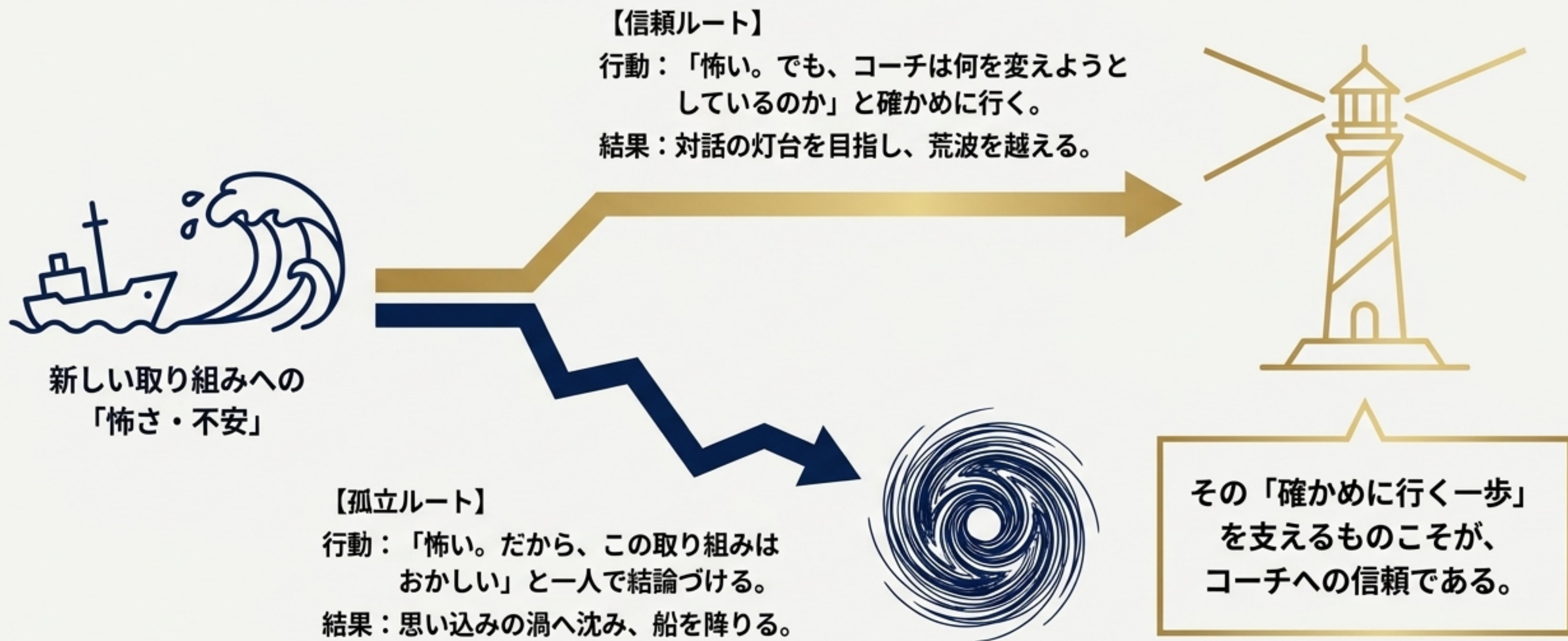
2. 苦手なことに
向き合わされる



3. 今まで以上に、
一球の責任が重くなる

ここで不安を覚えるのは、極めて自然な反応である。分かれ道は、その「あと」だ。

不安のあとに訪れる、2つの航路



【信頼のパラダイムシフト】 真の出番はいつ訪れるか？

信頼の本当の出番は、自分にとって「都合の悪いこと」が起きたときにこそ試されます。

	 都合の良い時の信頼 (平穏な海)	 都合の悪い時の信頼 (荒波)
状況	楽しい練習、納得できる助言、 嬉しい成果が出ている時	新しい取り組みが怖い、弱さが露わにな る、今までのやり方が通用しない時
心理	「コーチを信頼しています」と 口にするのは容易い	「この人は何を伝えようとしているの か？」と思考を巡らせる
実態	表面的な同調	これまで育ててきた真の信頼

「一人で出す結論」の罠

相手の意図を聞かないまま、自分の中で相手への判決を下してしまっていないだろうか。一人で考えることは大切だが、確かめる姿勢がなければ理解からは遠ざかる。



想像による判断

- 判断材料：言葉や行動の一部分の切り取り、自分の不安、思い込み
- 結果：筋の通った説明ができて、事実とは伴わない



理解に基づく判断

- 判断材料：指導の文脈、取り組みの狙い、コーチへの直接の問いかけ
- 結果：想像ではなく、事実に基づいた決断ができる

「船を降りると決める前に、船長と話したか？」

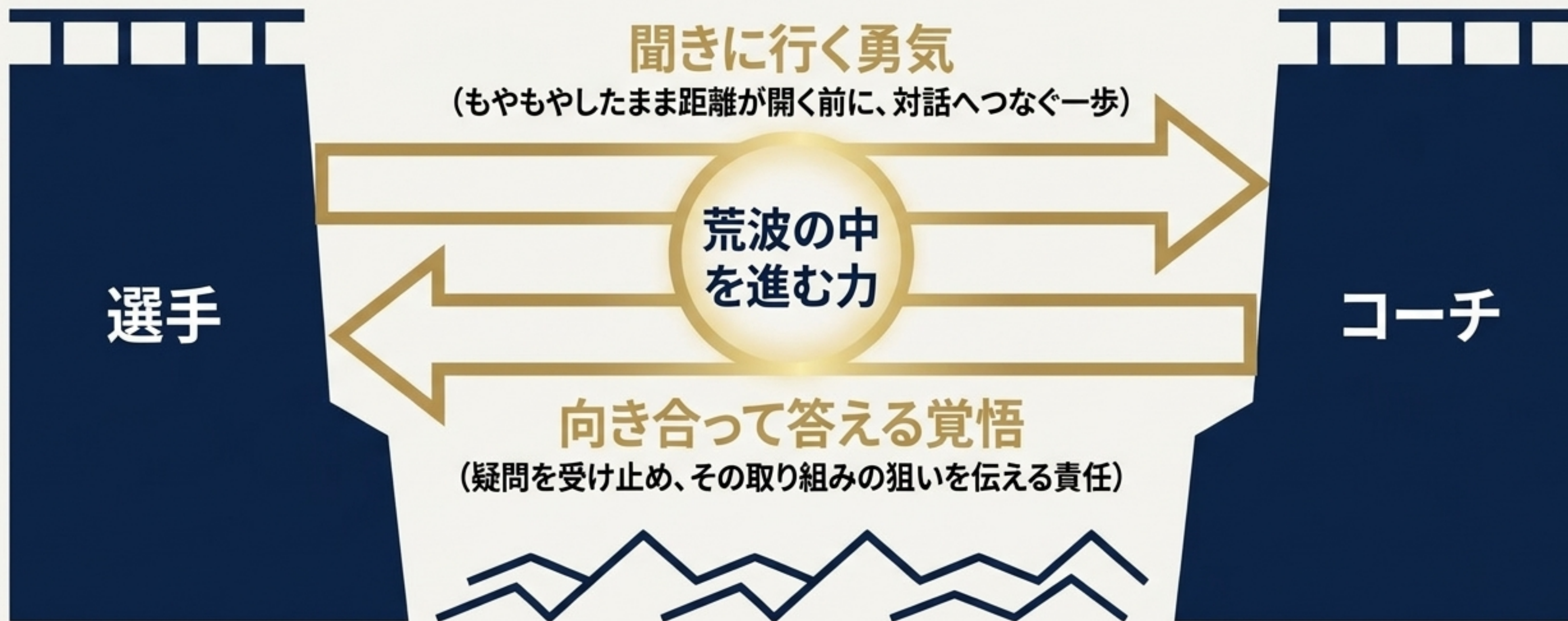


信頼とは、疑問を飲み込むことではない。

疑問が生まれたときに、
理解するための対話を続けることだ。

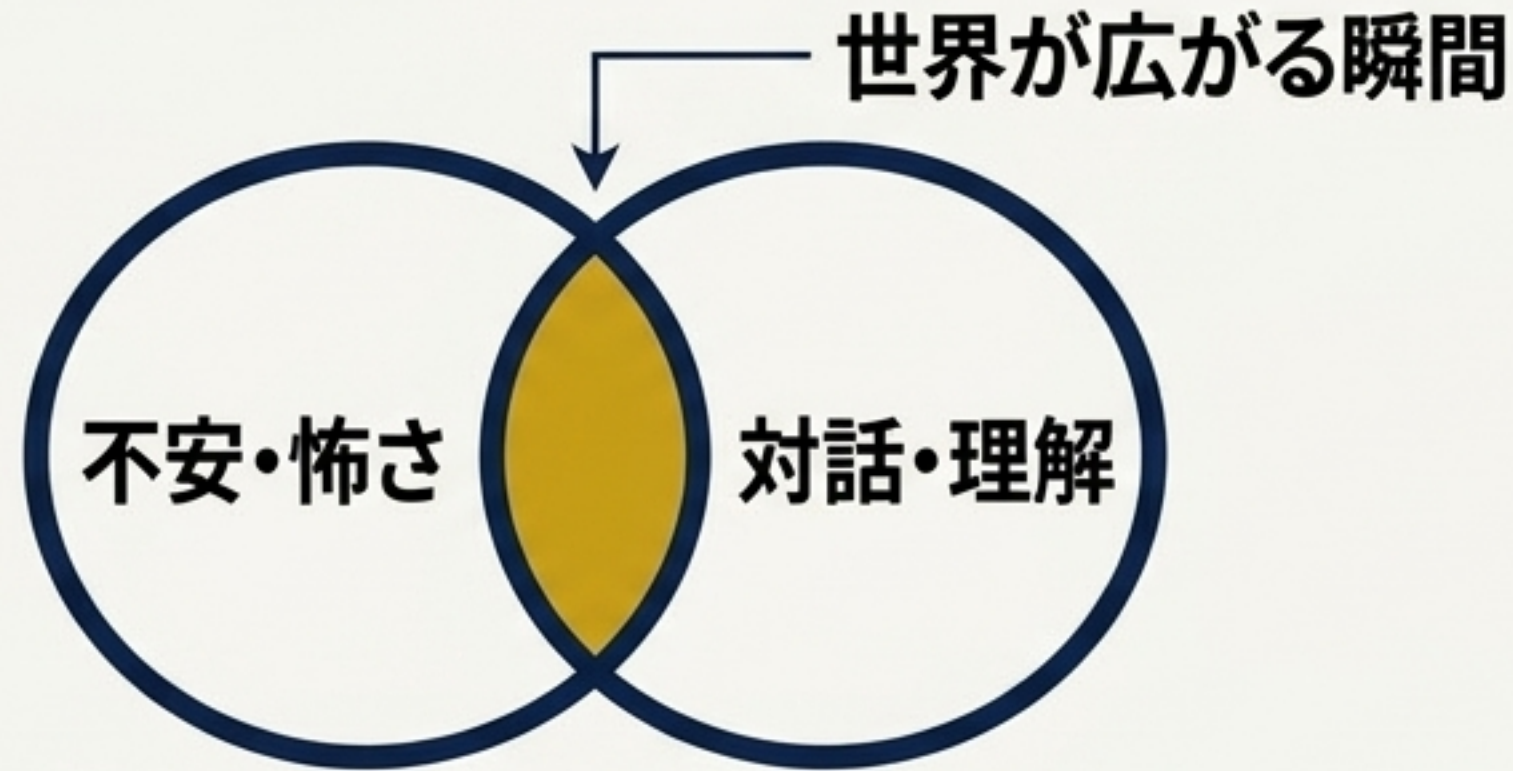
荒波を越える「双方向の架け橋」

船が荒波の中でも進めるのは、この【往復の矢印】があってこそ成立する。



不安と成長のスイートスポット

私たちは、大きな誤解をしています。「怖さが消えたから、前に進める」わけではありません。



怖くなくなったから進めるのではない。
怖さを抱えたまま、理解しようとする。
その一歩が、自分の世界を広げるのだ。



荒波の中でこそ、差し出せる手がある。

一人で結論を出し、船を降りる前に。

仲間として、あるいは覚悟ある指導者として、その手を差し出せる自分でありたい。

さあ、船長と話そう。対話から、本当の航海が始まる。